

ビジョン型プランニングによる 市民主体形成に関する研究 -塩田津川と町並み夢ぷらんフォーラムを事例 として-

榎本碧¹・島谷幸宏²・樋口明彦²・林博徳²

¹正会員 国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所
(〒062-8602 札幌市豊平区平岸1条3丁目1番34号)
E-mail:enomoto-m@ceri.go.jp

²正会員 九州大学大学院 (〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744)

本研究は地域のまちづくり計画を作成する手法としてのビジョン型プランニングについて検証する。ビジョン型プランニングは、既存の行政境界や管理境界にとらわれず、ある地域の履歴や住民の昔がたりから導きだされる将来ビジョンを具体的なイメージとして示す計画づくりの一手法です。本研究は、NPO法人塩田津町並み保存会の主催により平成27年に実施された塩田津川と町並み夢ぷらんフォーラムにおいて、塩田津の再生をテーマに住民ワークショップ形式による昔語り、夢語り、しよの提案をまとめるプロセスを経て、塩田津再生のビジョンを作成した経緯を対象にビジョン型プランニングによる市民主体形成への効用の可能性を整理する。

Key Words: visionary planning, historic riverport regeneration plan, community initiative

1. 研究の背景と目的

本研究の目的は我が国の人口減少の進む地域のまちづくりの検討手段の一手法としてビジョン型プランニング (visionary planning) について検証するものです。

地域の将来プランを作る手法として課題解決型とビジョン型があります。課題解決型は現在ある課題をどうするか直接検討する方法、ビジョン型は長期的なイメージを先に作り、そこから具体的な活動に結びつける方法です。

一般的に都市・地域計画分野でいわれるビジョン (Vision) という語は、1980年代半ばからアメリカの地域計画づくりの中で使われ始めました。1980年代はアメリカは不況に見舞われており、特に経済的に不利であった農村部において、地域リーダーが投資の呼び込みや人材獲得のために明確な地域の将来プランが必要であったことからビジョンが作られるようになりました。以降、ヨーロッパや英語圏ではない国でもビジョンという語が多用されるようになりましたが、その内容は必ずしも同

じではありません¹⁾。日本でもこれまで総合計画などで使用されています。

本稿で示すビジョンとはこうした自治体の計画などに設定されるビジョンや構想ではなく、行政境界等にとらわれず、ある地域の過去の履歴や住民から導きだされる将来の計画を具体的なイメージとして示すものです。

図-1に示すように、課題解決型プランニングが現在、

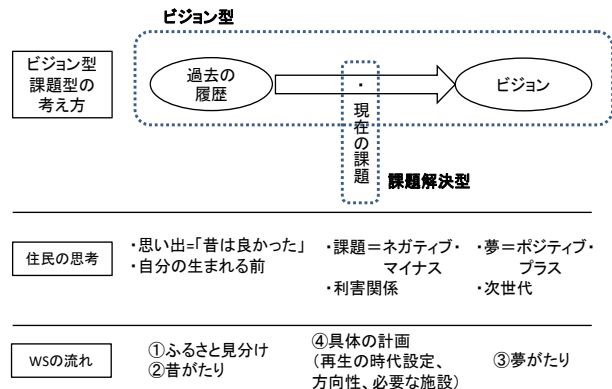


図-1 本研究におけるビジョン型と課題解決型の考え方

地域に存在する課題に直接、もしくは課題にのみ注目するとすれば、ビジョン型は地域の過去の履歴からビジョンの中に描かれる未来までの歴史の流れとして、現在ある課題もその一部としてとらえ、ビジョンを実現する一環として課題に向き合う計画手法です。

筆者らは、こうしたビジョン型プランを国や地方自治体などに囚われず地域やそこで活動する団体で作成し計画の内容を関係者で共有すること、また、プランを作る過程に参加することが、地域の良好な公共整備につながるだけでなく、地域活動への市民の主体的な参加や活動（市民主体形成）に役立つと考えます。

本研究は塩田津重要伝統的建造物群保存地区で平成27年に実施された「塩田津川と町並み夢ぷらんフォーラム」を対象とし、ワークショップの内容を検証することで、ビジョン型プランニングによる地域の再生プラン作成プロセスが地域住民の主体形成に具体的にどのような効用の可能性があるか要点を整理します。

2. 塩田津川と町並み夢ぷらんフォーラム

(1) 塩田津川と町並み夢ぷらんフォーラムの概要

「塩田津川と町並み夢ぷらんフォーラム」は、平成27年度にNPO法人塩田津町並み保存会（以下、保存会とする。）の主催で実施された塩田津の川港再生プランを検討する事業です。塩田津は重要伝統的建造物群保存地区に指定され、保存会をはじめ、地域の息の長い取り組みにより保存が実現し、現在は保存地区の観光活用やより良い地域環境の創生に向けての議論が進められています。

九州大学流域システム工学研究室および同景観研究室は、保存会からの委託を受け、市民の主体形成を促しながら、塩田津の将来計画を立てていく手法としてワークショップを軸とした検討手法を用いて事業を進めました。

事業の実施スケジュールは、ワークショップは概ね二か月に一度の頻度で開催された。実施日は7月12日、10月3・4日、1月9日、2月21日、3月22日で、各回の主な検討内容は次節に示します²⁾。

(2) ワークショップのプロセス

「塩田津川と町並み夢ぷらんフォーラム」のワークショップの様子を写真-1、ワークショップの流れを表-2に示します。ワークショップは計5回開催し、最終回のまとめを除くと4回で塩田津の再生プランの検討を行いました。それぞれの検討は以下の通りです。

a) 昔がたり（平成27年7月12日）

- 「昔は良かった」という人の意識を活用して、過去のこんなことが良かった、楽しかったとい

う思い出を語ってもらうことで、情報を引き出す。

- 現在の課題に直接目を向けない。
- テーブルの年代、出身地域をばらばらにすることで、おのずと地域の歴史を共有する。

b) 夢がたり（平成27年7月12日）

- 昔がたりを行ってすぐ、もしくは振り返りを行った後に未来の夢を語ってもらう。



写真-1 塩田津川と町並み夢ぷらんフォーラムの様子

表-2 ワークショップの流れ

日程	ワークショップ	検討の内容
2015/7/12	第1回	昔語り 夢語り プロジェクトの進め方
2015/10/3 2015/10/4	第2回	ふるさと見分け 「しよう！」の提案
2016/1/9	第3回	再生の時代設定（過去のリレキ） 川港再生の方向性（ビジョン） どのような施設が必要か、必要ないか
2016/2/21	第4回	プラン原案の良い点 改善したい点 付加したい要素
2016/3/22	第5回	最終プランの確認

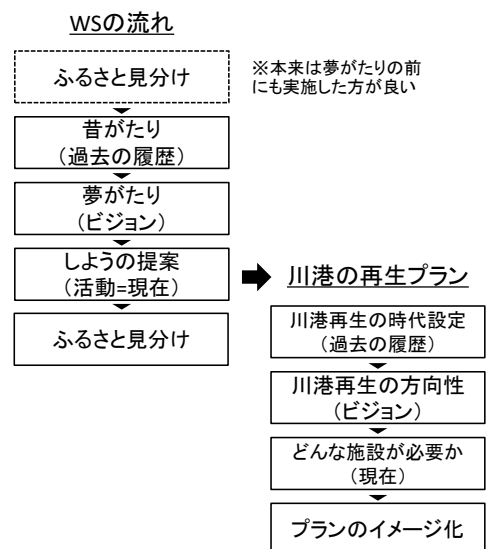


図-2 ワークショップの流れ

- c) 検討の進め方（平成27年7月12日）
 - ・ これ以降の検討の進め方をワークショップの中で議論した。
- d) ふるさと見分け（平成27年10月3日）
 - ・ 塩田の地域を歩き、その地形的・歴史的特徴を学び、地域の魅力の再発見をし、その後の議論につなげた。
- e) しよう・したいの提案（平成27年10月4日）
 - ・ 自分でできること、やりたいこと、やることを提案してもらった。特に行政まかせにしないという意識づけを行った。
- f) 川港再生の時代設定（平成28年1月9日）
 - ・ 再生の基本となる時代設定について検討した。
 - ・ 重要伝統的建造物群保存地区の保全の目標となっている明治大正時代から昭和の川港として使用されていた時代までを再生の目標とした。
- g) 川港再生の方向性（平成28年1月9日）
 - ・ 再生の基本となる時代設定について検討した。
 - ・ 重要伝統的建造物群保存地区の保全の目標となっている明治大正時代から昭和の川港として使用されていた時代までを再生の目標とした。
- h) どんな施設が必要か（平成28年1月9日）
 - ・ 必要な施設、不要な施設について議論した。
- i) 川港の再生プランのイメージ化（2月21日、3月22日）
 - ・ f)～h)で議論され合意された意見をもとに川港の再生プランの平面イメージを作成し（図-3）、さらにこのたたき台をもとに再生プランについて2回のワークショップで検討した。

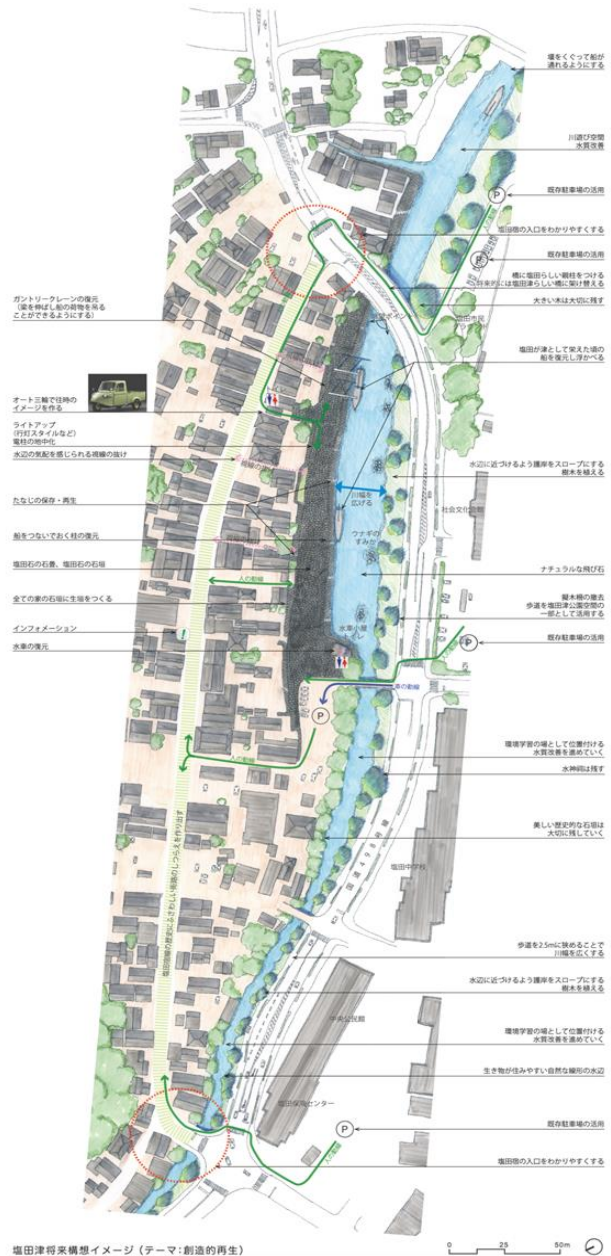


図-3 イメージ化した塩田津川港再生プラン

3. ビジョン型による市民主体形への可能性

(1) ポジティブな議論の場づくり

地域の課題を直接議論すると、課題そのもののネガティブなイメージやその解決に必要な利害関係の煩雑さなどのマイナスの情報に参加者の意識は引っ張られる。ビジョン型では、現在の課題を直接議論せず、ふるさと見分けや昔語りを用いることで、参加者の知らない、体験したことのない地域の魅力や資源を整理する。また、昔がたりの中で語られる「昔は●●が良かった」という意識、事柄をそのまま夢語りでビジョンとして議論し、方向性を先に決め、より良いものを作る、良い環境を実現するというアクションの中で現在の課題についても自ずと解決できると考えられる。

(2) プランをイメージ化することで合意のフリーズポイントを明確化する

ビジョン型プランニングではプランを具体化することが重要である。これは、合意形成で重要な議論のフリーズポイントを明確化する上で役立つと考えられる。

謝辞：NPO 法人塩田津町並み保存会のみなさま、塩田津川と町並み夢らんフォーラムに参加いただいた皆様にお礼申し上げます。

参考文献

- 1) Shipley, R. : The Origin and Development of Vision and Visioning in Planning, International Planning Studies, Vol.5, No.2, pp.225-236, 2000.
- 2) NPO 法人塩田津町並み保存会、九州大学：塩田津川と町並み夢らん報告書、2016.3.